



発行 御殿場十字の園
御殿場市深沢
印刷 岳麓印刷(株)

感謝にみちて

設立準備委員長 横山 巖

富士山麓に春の訪れを促すかのごとくに、去る四月一日から「御殿場十字の園」は開園しました。 日本自動車振興会、静岡県、県東部各市町村の御援助も忘れ

開園にさきだち、三月三十日建設関係の業者の献身的な御努力は天候にも恵まれて工事を極めて順調に進捗させました。 豊かな経験を生かしての設計

静岡県の東部の御殿場の地に運営に当って下さることに成りました。 濱松の十字の園から鈴木園長

この特別養護老人ホームの設立が計画されて以来多くの人々のが一家を挙げて移住され今後の

お祈りと御厚意にささえられて職員も次々と与えられました。 参りましたことを想い起します。 いよいよ「御殿場十字の園」

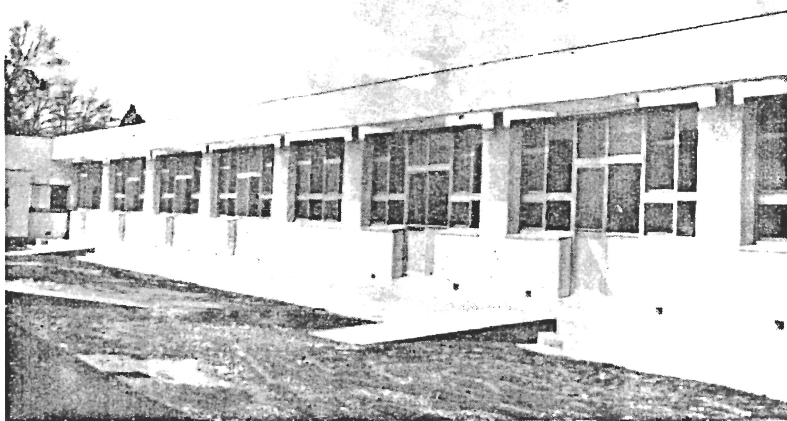
「お年寄り」を次々に迎えながら 聖書にもとづき「お年寄り」に仕える姿勢で進みたいと思ひます。 どうか今後も今迄に変わらぬ御好意をお願い申し上げます。



開園に先だって、礼拝を献ました。



鈴木生二園長



御殿場十字の園 ホーム棟

奉仕と基本的人権

社会福祉事業の根拠

西村 一之

「つかえる」の語は我々の間で数多く使われるが、楽しい響きはない。なぜであろうか。つきに本来の意味をさぐってみよう。第一に、目上の人、とくに天皇の身近にいて、その用をたすことである。そこで第二に、国の仕事つまり官について職を行なう意味が生まれた。「つかえる」に相当する漢字「仕」も同様で、主人を取って奉公することである。奉公によせ奉仕にせよ、このように、目上の人の仕事を目下の人ができることであった。例えば、武士が殿様に仕え、丁稚や番頭が主家にご奉公するなど。ご奉公には、天皇のために兵士になり、戦死する意味さえある。「つかえる」には、特定の人間観がかくされている。ひとを、お上とその側にある人、下々にある人に区別する考え方である。このように人間の価値を上と下に二分する考え方Ⅱ思想は封建時代に確立した。

「つかえる」の語は我々の間でお根強く残っている。お上には「官」となって、下々は「民間」となって。官はなんであれ上にあつてすぐれ、強く、良いもの、民間もしくは、私立は下にあつて劣り、弱く、悪いものの通念はなくなっていない。そしてこの上と下との間は、不信頼の対立関係にあり、相互の協力には実にもむずかしい。出世してえらくなるといふことは、官につくことであるし、また三人でも五人でも他人を使う身分になることだとされる。つまり、上になる、上の側につくことである。したがって、ひとたび上の側に立つと、人が変つたようにえぼり、横柄になり、他人を下として見さげがちになる。かつて一時、官、公吏は「公僕」であると強調されたことがあるけれども、人々一般の生活に則して尽力するのではなくて、監督し、支配し、規正しようとする気風は依然なくならない。いわゆるお役所仕事である。

昔から貧しい病者、孤児、老人などを助ける仕事は、特別に同情深い特志家が身銭を切つて行なうものと考えられてきた。珍しい美談とされてきた。今日、国にせよ、県や市町村にせよ、福祉施設のためにお金を出す場合にもなお、上の側にある人が下々の人に慈善として特別に良いことをしてやる意識は働いている。社会福祉国家の理念をひとは口にすが、やる気はない。なにが欠けているのか。人間はすべて、男女・老若・健康と病氣・才能の有無を問わず、平等であり、対等であるという基本的人権の自覚が欠けているのである。人間に上も下もあろうはずはない。誰れだつて病氣になり、年老いるし、我が子が孤児になる可能性はころがっている。「つかえる」の意味を変えなければならぬ。神が創造したもうた生命につかえるのだと。我々は福祉を基本的人権の問題として考え、自分も責任の一端を担い、人々と手をつないで実践し、隣人に働きかけ市を、国を動かし、社会を変えていかなければならない。



心もはずむ開園準備の寮母さんたち

キリストの弟子パウロは言った。く奴隷も自由人もなく、男も女「あなたがたはみな、キリストもない。あなたがたは皆、キリストにある信仰によつて、キリスト、イエスにあつて一つだかの子なのである。……もはらである」と。
(十字の園理事)

あなたも支える会に!!

牧師 岡 本 明 夫

皆様方の心からなる御協力を二三名はほしい」と言っている。特別養護老人ホーム御殿場十字の園が三月三〇日献堂式を行ない四月一日開園いたしました。心より感謝いたします。この老人ホームを運営して行きますために物・心両面からの支えが必要となつて参りました。鈴木生二園長御夫妻は、この浜松から引越をして御殿場十字の園で、ねたきり老人のために日夜御奉仕をされています。そこで私たちは「御殿場十字の園を支える会」を作りました。皆様方が一人でも多く、この支える会に御入会下さいましてお支え下さる様をお願い致します。

会費 一年 一口千円

お一人で、できるだけ幾口もおもち下さい。

御殿場十字の園は定員五〇名ですが、そのお世話をする職員は定員は一八名なのです。

鈴木園長は「これでは充分なお世話ができない、どうしても

二三名はほしい」と言っている。措置費では一八名分の給与しかできません。五名分の給与を支える会から支出して老人たちのお世話を充分にして頂きたいと願っています。それと同時に御殿場十字の園は建設の時二千三百万円を借入っています。それを返済しなくてはなりません。私たちは以上の二点から御殿場教会を中心に支える会を作つたのであります。運営費と借入金金の返済に一年間に、どうしても三百万円が必要なのです。この必要額をみたくするために是非御入会を重ねてお願いを申し上げます。又お知り合いの方たちに御殿場十字の園を御紹介下さいませ様に。

御理解下さる方々を支える会に御連絡を頂きたく思います。よろしくお願い申し上げます。

御殿場十字の園 建築資金献金お知らせ

46年4月30日

一般献金	7,865,813円
予約献金	1,119,500円
チャリティーショー (2回)	229,300円
バザー色紙即売 (3回)	325,385円
街頭募金 (10回)	248,947円
チケット献金	150,600円
合計	9,939,545円



さあ、あすから
始まります。

お年寄りをお迎
えます。

念入りに整備す
る奉仕の方々



全国各地の兄弟の御協力によつて、右のような沢山の献金が寄せられました。厚く御礼申し上げます。このお金は予約献金を除く全額を建設資金に加えさせて頂きました事を、謹んで御報告申し上げます。

特に募金に当つて我が事のよう、熱心に募金活動を続けて下さつた「みんなの会」の方々や、毎月お忘れなく御送金下さいます浜松の三方原教会、半田市の榎本とき様、神奈川県座間町の井上フサ子様、東京北小岩の渡辺太作様には、深い感謝を捧げます。

猶、今後お寄せ頂きます献金は「御殿場十字の園を支える会」の会計に繰入れさせて頂きます。

建設委員会 鈴木 享三

報告 経過

二月二十二日
 建築は完成近し、献堂式は三月二十八日、一般落成式は二十九日と決定、十五日案内状送附について話し合う。

午後一時二〇分
 「御殿場十字の園」を神に献げる式は牧師岡本明夫司式により挙行参列者一三〇名は厳肅のうちにも感謝をささげ、想いを清められ使命の重さの前に一更ひれふし御加護を祈った。

ともにましますみたまこそ
 くらきをてらす ひかりなれ
 とわにかかわらず てりたまえ
 われらのうちに この宮に
 浜松に十字の園を開き、創立は日本では、最初とされた鈴木生二園長が、この御殿場十字の園に神の声のままに、ただこのためにおいでになった。協力者が、ぞくぞくとこのあとに続いた。建築工事もすばらしい舍づくりを全うした。神のなし給う事の力をおもい、人々を通して今見ゆるところのみ堂に住まう喜びはいよいよ大きくなることだろう。式後各棟、各堂々を廻り立派に行届いた跡々をみせていただき、関係者御一人御一人その労をねぎらい、たたえ合つた。夕暮になつても

御殿場十字の園と名称される。職員募集について。キリスト新聞、信徒の友等に広告、市内有線放送等にも依頼し職員確保のために協議した。応募者から人選が始まった。みんな信仰の友に愛にあふれた人々、使命と責任にふるいたつ人々ばかりである。

三月二十四日
 職員宿舎完成浜松より職員四名園長家族入寮、準備体制に入る。ホーム内の設備、ベット作り、給食用具購入、モーターの試運転、水道から配水、つきつき、大スピードの整備である。あと数日後の献堂式開園をひかえ、みんな大童ではりきる。

三月二十八日
 献堂式を前に始めて礼拝を守り、献堂の諸準備をする。職員が決まり、その働きを互いに理解し合い、感謝をささげた。献堂式 三月三〇日

光がある”
 旧約聖書ゼカリヤ書一四一七

箱根連山から朝日は旭り靈峰富士にその夕映えをみるこの地、神の光とこしえに、この園に輝くことを約束してまいりました。

~~~~~

水ができました!!

さて水をためようとして驚いたことに、チヨロチヨロ……これでは顔を洗うのがせいぜい?

給食、洗濯、暖房はおろかトイレも不自由、思いがけない障りに大あわて、業者も走る、市役所にも走るさては自衛隊の給水車を動いん?先生水ができました!!ふん水のように!!ホットしました。お年寄りも安心して、あすおいでになります。と職員の方々の嬉しい声でした。



第三号は、おそくとも三月には開園を!と諸準備においまくられる日々、すべてのほりきりをそそいでおりました為、おそくなりましたことをお詫び申します。

お蔭で、ご覧のように献堂式開園と順調な歩みをお知らせ申し上げることが出来ました。深く感謝を申し上げます。

いよいよお年寄りを迎え部屋々々から笑い声、喜びの話声があきこえ、往來の音々がきこえてまいります。御祈祷下さい。又はつらつとした寮母さん看護婦さん、調理の方始め職員の方々のため是非おいのり下さい。

皆様の周囲にお働きかけ下さい。老人福祉の問題に積極的に理解をもつておられる方がおりましたら、是非御紹介下さいませんか。心と手をつなぎ、生命と希望に仕える者の輪の大きく、強く広げたいと願っております。木の芽のもえいずるさつきの空をおおぎつつ、創造主の広大な御祝福を皆様の上にも豊かにと心から祈ります。

(豊島)

あとがき